



今庄宿プロジェクト

今庄宿プロジェクト協議会の活動内容とともに“今庄宿”にまつわるお話を連載していきます。

今庄宿へ戦略的に来訪者を呼び込む取組み

今庄宿の地域資源を活かし、今庄らしさを感じられる催しの企画の一つである“きとつけ今庄 酒蔵ふえす 2016 新蕎麦祭り”が11月20日(日)午前10時から昭和会館にて開催されます。

今庄宿の4酒蔵(百貴船、白駒、聖乃御代、鳴り瓢)自慢のお酒と今庄いなか料理を堪能していただき、振舞い酒、4蔵元飲み比べセット販売のほか、酒蔵見学も楽しんでいただけます。

今庄宿プロジェクト協議会では、観光客だけでなく地域住民の方にも気軽にお越しいただき、4酒蔵の魅力を感じていただくとともに今庄宿のファンをつくり、リピーターを増やしていきたいと考えています。

※お酒を飲まれる方は、公共交通機関をご利用していただきますようお願いいたします。



“今庄宿”豆知識 その5

近世の北陸道“北国街道(栃ノ木峠越え)”

栃ノ木峠越えは、柴田勝家が整備した道で1568年以降、織田信長の安土城参勤の最短ルートとして利用されるようになった近世の北陸道で“北国街道”と呼ばれています。

峠付近に群生する樹齢約500年、樹高25m、周囲7mの栃ノ木の巨木は越前と近江の国境から時と人の流れを見守ってきた歴史の証人です。



問合せ 観光まちづくり課 ☎ 47-8013

きとつけ今庄 今庄宿プロジェクト

検索

みなみえちぜん

観光まちづくり情報 第6回

今庄宿を知ろう！

今回は知っているようで知らない今庄宿の歴史を紹介します。

Q. 今庄宿はいつ誰が整備したの？

A. 1602年、福井藩主 結城秀康(徳川家康の次男)によって、重要な宿場町として本格的に整備されました。

Q. どうして今庄宿の道は、クネクネと曲がっているの？

A. 敵が攻めてきた時の防御に配慮して、遠くを見通すことができないように計画的に整備したためです。このようにつくりを矩折(かねおり)と言います。



Q. どうして今庄宿は宿場町として栄えたの？

A. 北陸から京や江戸に向かう旅人は、山中峠、木ノ芽峠、栃ノ木峠いずれかの峠を越えなければならず、その際に今庄はどのルートを通っても必ず通らなければならない町でした。そして当時の旅人の1日の旅程が女性で8里、男性で10里を見込んでおり、ちょうど福井から今庄が約8里であったことから福井を早朝に出た旅人は今庄に宿泊したと言われています。

Q. 文政の道ってなに？

A. 今庄宿の南端(現稲荷区・鹿森川沿い)にある笏谷石で建てられた道しるべです。文政13年(1830年)に左は栃ノ木峠越え、右は木ノ芽峠越えを示す道しるべとして建て(再建)られました。

Q. 京藤甚五郎家って何がすごい？

A. 天保年間(1830~1844年)に建てられた約二〇〇年前の貴重な建物です。塗籠の外壁と赤みの強い越前瓦、その瓦の上にたつ小さな屋根(卯建)など今庄の伝統的な建物の造りを見ることが出来ます。



今も当時の面影を残す今庄宿のまちなみを、皆さんも今一度歴史を感じながら歩いてみませんか。

問合せ 観光まちづくり課

☎ 47-8002